

## ウソの見破り方

～もうダメされない～

隈沢 薫 佐藤 拓也 曾我 遼太 鳥羽 新之助

### 要旨

人はウソをつくとき何か行動に表れるといわれている。そこで僕たちはウソをつくときの目線を調べた。本校の生徒を対象に男女合わせて80人に調査を行ったところ、ウソをつくときの目線と事実を述べる時の目線には違いがあることが分かった。

キーワード： ウソ・心理・行動

### 1 序論

相手のウソを見抜くことができれば様々な場面で役に立つと思う。よく「ウソをつくときは目が泳ぐ」と言われるが、実際に目線はどの方向に動くのかが分かると簡単にウソを見破ることができると考えた。そこで男女合わせて80人に調査を行ったところ、ウソをつくときと事実を述べる時の目線の方向には違いがあることが分かった。

### 2 調査

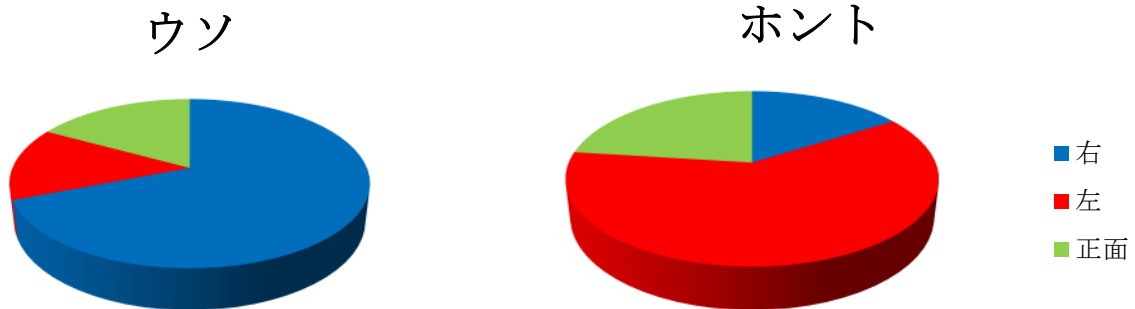
5つの簡単な質問をし、その質問に対して2つだけ被験者の好きな番号にウソをついてもらった。その様子をビデオで撮影し、分析した。

#### ○出題した質問

- 昨日食べた夕食・今日の3時間目の教科・好きな歌手などイエス or ノーで答えられない質問
- 目線の方向は被験者から見た方向である。

グラフ1

グラフ2

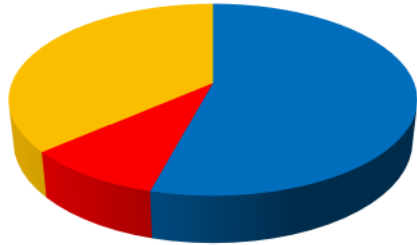


#### 【グラフ1, 2の結果】

ウソをつくときは71%の人が被験者から見て右を向き、事実を述べるときは65%の人が左を向くことが分かった。

グラフ3 事実を述べたときの目線の位置をゼロとして、ウソをついたときの目線が被験者から見てそれより右または左に変化した人の割合

## 目線の変化



■ 右に変化  
■ 左に変化  
■ 変化なし

### 【グラフ3の結果】

52%の人がウソをつくときにだけ目線が右に変化した。

### 3 仮説の設定と検証

#### (1) 仮説の設定

「NLP」という本によると、人はウソをつくとき目線に表れる。

#### (2) 検証方法

ウソをついたときと事実を述べるときの目線の違いに注目し、それぞれグラフを作成。また、その中で目線に変化があった人の割合についてのグラフを作成。

#### (3) 結果

ウソをつくときにだけ右を向く人の割合は全体の52%である。

### 4 結論

グラフ1・グラフ2の結果から、ウソをつくときの目線は71%の人が被験者から見て右方向に動き、事実を述べるときには65%の人が左方向に動くことが分かった。またグラフ3の結果から、ウソをつくときにだけ目線が右に変化する人の割合は52%だった。これらの結果から事実を述べるときに目線は左を向き、ウソをつくときにだけ右を向く確率が高いと言える。

特に過去についての質問（例：『昨日の夕食は何を食べましたか？』）に関しては、90%の人が左方向を見て思い出そうとしていたことから、過去を思い出す際には左を見る傾向があることが分かった。さらに、いったん左を見た後に右を見てウソをつく人が多く見られ、「目が泳ぐ」というのは「目線が左から右に動く」ということなのかもしれない。

#### \*謝辞

本研究に当たっては、アドバイザーとして熱心にご指導いただいた岡山県立倉敷天城高等学校の益田先生に感謝いたします。

#### 【参考文献】

・高橋慶治 NLP 超心理コミュニケーション 神経言語プログラミング